


市役所機能と複合化する新消防庁舎建設基本構想【概要版】

新消防庁舎建設の必要性

現庁舎の概要				現庁舎の問題点	
構造	建築年 (経過年)	耐震性能		判定基準	ランク
		消防本部 部分	新基準		
RC造 2階建	S48.3 (48年経過)	消防署 部分	旧基準 (注1)	II	(注2)
注1 耐震性能判定基準「旧基準」とは、昭和56年5月31日以前に旧耐震基準で建築されたものをいう。 注2 耐震性能ランク「II」とは、静岡県が独自に策定した判定基準において、「耐震性能がやや劣る建物。倒壊する危険は低い、かなりの被害を受けることも予想される」と評価。					
<ul style="list-style-type: none"> ・築48年が経過し、老朽化が著しい。 ・耐震性能が低いため、災害拠点として脆弱。 ・液状化危険が大きい地域に建設されている。 ・地盤沈下が進行している。 ・狭隘のため、効率的な業務運営に支障ある。 ・出勤する隊員と来庁者の動線が交錯している。(危険) 					
					
新消防庁舎の建設が必要					

消防庁舎建設の基本的な考え方

基本理念

- ・災害活動拠点として機能を発揮できる庁舎 → 耐震性に優れ、備蓄機能や停電対策を強化します。
- ・高い機能性を有する庁舎 → DXを推進するとともに、各種訓練施設を充実します。
- ・健全な勤務環境を備えた庁舎 → 当直勤務者の特殊勤務に配慮した環境に努めます。
- ・市民に親しまれる庁舎 → バリアフリーを基本に利用しやすい庁舎とします。
- ・人と環境にやさしい庁舎 → 環境保全や経済的な合理性に優れた庁舎とします。

新消防庁舎に必要な機能

庁舎	消防車両の出勤に際して、来庁者の車両と交錯しない動線を確保するとともに、庁舎内においても、緊急出勤する消防隊員と来庁者の動線を分離します。
車庫	大型車両の出勤を考慮して広い幹線道路に面し、前面には車両点検や洗車をするためのスペースを設けます。
広域受援の対応	大規模災害が発生した場合、相互応援協定に基づく応援隊、緊急消防援助隊等の援助を受け入れるため、大会議室、自家用給油取扱所、備蓄倉庫等を整備します。
教育・訓練施設	訓練施設は、通常の消防訓練はもとより、幼年・少年消防クラブや民間事業所等への防火防災意識の普及啓発を図るための機能を有する施設を整備します。
災害に強い庁舎	地盤改良(液状化対策)に加えて、建物は耐震又は免震構造とします。また、非常用発電設備や自家用給油取扱所を設置して、大規模災害時の業務継続に備えます。
地球環境保護	湖西市「ゼロカーボンシティ」宣言(R3年7月)に基づき、太陽光発電設備などの再生可能エネルギーの活用等を推進し、環境保護や経済的合理性に優れた庁舎とします。
DXの推進	近年の情報通信技術の向上に伴い、地域コミュニティの再生、地域活性化などグローバルな展開を視野に入れつつ、国の方針に基づき最先端のICTを実現できる準備を整えます。
ユニバーサルデザイン	文化・言語・国籍などの違いにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう、通路、階段、トイレ等にユニバーサルデザインを採用します。
労働環境	消防職員が365日24時間体制の勤務を行う庁舎として、仮眠室の個室化、休憩スペースの確保や女性職員に配慮した庁舎とします。

2 署体制と3署体制の検討（比較）

区 分	2署体制の場合 (統合庁舎の建設)	3署体制の場合 (既存庁舎の建て替え)
庁舎の位置	① 鷺津地区と新居地区の中間点 (統合庁舎 清源坂交差点周辺) ② 新所原地区 (西分署)	① 古見地区 (建て替え庁舎 現消防庁舎の周辺) ② 新居地区 (南分署) ③ 新所原地区 (西分署)
出動隊数 (R5年度以降) 7隊運用	・消防署(本署) 5隊 ・西分署 2隊	・消防署(本署) 4隊 ・南分署 2隊 ・西分署 1隊
庁舎規模	・消防本部(消防署) ⇒ 庁舎統合により、大規模化 (車両・人員の大幅な増加) ・西分署 延べ 816 m ²	・消防本部(消防署) ⇒ 南分署からはしご車を配置換え ・南分署 延べ 861 m ² ・西分署 延べ 816 m ²
新庁舎の 建設用地	・建設用地の確保が必要 ⇒ 交通アクセスが良く、適正な場所 が見当たらない。	・現消防本部(消防署)の敷地内へ建て 替えの場合 ⇒ 市有地 + 借地 ※建設用地は確保されているが、借地代 の支払いが必要
市内消防力の バランス	・統合庁舎付近に消防力が集中 ⇒ 西分署の増強が必要不可欠	・市内3箇所に消防力が分散
出動隊の 現場到着時間	・現状より遅延する。 ※特に新居地区の東側、北部地区、白須 賀地区の遅延が著しい。	・現状維持(全国平均並み) ※消防庁舎は、「消防力の整備指針」に 基づき、適正な位置に配置されている。
その他の課題	・庁舎移転に伴いデジタル無線の電波伝 搬調査が必要となる。 ・状況により、無線中継局(用地を含む) の新設が必要となる。 ・西分署の増強に伴い、新たな職員用駐 車場の確保(拡張)が必要となる。	・南分署が津波浸水想定区域内にある。 ※津波被害が予想される場合には、住民 へ迅速な避難を呼びかけながら、車両 で高台へ緊急避難する。

【検討結果】

↓

建設用地の有無(確保)、市内消防力のバランス、出動隊の現場到着時間、経費負担の大きさなどから、消防庁舎の3署体制を継続(維持)し、現消防本部(消防署)庁舎周辺に庁舎の建て替えを行うことを基本として、検討を進めることとしました。

建設候補地の決定 ⇒ 現消防本部(消防署)の敷地内

- ① 鷺津地区一帯の市街地内に位置していること。
- ② 西分署と南分署のほぼ中央に位置し、消防庁舎の配置バランスが良いこと。
- ③ 建設に要する最低限の敷地面積を有していること。
- ④ 幹線道路(国道301号)に接し、各地域への交通アクセスが良好であること。
- ⑤ 隣接する国道301号が県指定(1次)の緊急輸送路であるため、大規模地震発生時等に道路が被災した場合においても、優先的な復旧が見込めること。
- ⑥ 市役所、警察署に隣接し、連携体制の強化を図れること。
- ⑦ 消防庁舎の大幅な移転がないため、新たに消防救急無線の中継局(用地を含む)を設置する必要がないこと。

【検討結果】

↓

以上の理由から、現消防本部(消防署)の敷地内に建て替えを行うことが最も適正と言えます。しかしながら、古見川流域の一帯は液状化危険が大であるため、消防庁舎周辺から国道301号に接続する部分の大規模な地盤改良が絶対条件となります。

上位計画における位置づけ

第6次湖西市総合計画（R3年4月策定）	湖西市公共施設再配置基本計画（R3年3月改正）															
I期（2021～2025年度）における主な予定として、「消防本部（消防署）庁舎の建設」及び「通信指令装置及び消防救急デジタル無線システムの更新」を掲げています。	<p>【最終評価】（抜粋）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #fff9c4;">施設名称</th> <th style="background-color: #fff9c4;">1次評価結果</th> <th style="background-color: #fff9c4;">2次評価結果</th> <th style="background-color: #fff9c4;">最終評価</th> <th style="background-color: #fff9c4;">最終評価理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">消防署南分署</td> <td style="background-color: #ffff00;">A</td> <td style="background-color: #ffff00;">他施設に複合化</td> <td style="background-color: #f8d7da;">継続</td> <td style="background-color: #f8d7da;">他施設との複合化は困難</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">消防本部・消防署本署</td> <td style="background-color: #ffff00;">C</td> <td style="background-color: #ffff00;">継続</td> <td style="background-color: #f8d7da;">継続</td> <td style="background-color: #f8d7da;"></td> </tr> </tbody> </table> <p>【更新時の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後提供すべき行政サービスを踏まえ規模を検討する。 ・周辺の公共施設等との複合化を検討します。 ・民間活力による更新・活用を検討します。 <p>【配置の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体で配置を検討します。 ・利用実態を勘案し、統合・整理を検討します。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新本庁舎、新消防庁舎の建設に向けて詳細を検討します。 	施設名称	1次評価結果	2次評価結果	最終評価	最終評価理由	消防署南分署	A	他施設に複合化	継続	他施設との複合化は困難	消防本部・消防署本署	C	継続	継続	
施設名称	1次評価結果	2次評価結果	最終評価	最終評価理由												
消防署南分署	A	他施設に複合化	継続	他施設との複合化は困難												
消防本部・消防署本署	C	継続	継続													
湖西市公共施設再配置個別計画 （R3年3月改正）																
消防本部庁舎の再配置の方向性としては、「建て替え」と明記し、新庁舎の建設、旧庁舎の解体等は、通信指令装置の機能、車両の出動体制を維持しながら行う必要があるため、実施時期を「第2期（2021年～2025年）、第3期前半（2026年～2030年）」としています。																

新消防庁舎の建設計画

事業計画（案）

年 度	庁舎建設に関するスケジュール	通信指令装置等に関する事項
R3年度	新消防庁舎のあり方検討会の立上げ 新消防庁舎建設基本構想の策定 市民への説明会	専門部会の立上げ 新通信指令システム基本構想の策定
R4年度	建築設計（～R5年度） 地質調査業務	調査研究
R5年度	建築設計	通信指令装置等の基本設計
R6年度	庁舎棟の建設工事（～R7年度）	通信指令装置等の実施設計
R7年度	庁舎棟の建設工事 移転 解体工事設計	通信指令装置・デジタル無線の更新 ※ NTTドコモのFOMA回線の使用期限 R8年3月末まで 旧通信指令装置等の撤去
R8年度	旧庁舎等の解体工事 附属施設の建設工事（～R9年度）	
R9年度	附属施設の建設工事	

【備考】社会情勢の変化や湖西市の財政事情により、事業計画が変更される場合があります。

他用途との複合化

複合化施設等	期待できる効果
湖西市防災センター（災害対策本部・備蓄倉庫）	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部と危機管理課の連携強化 ・災害情報の共有化 ・防災関連システムの共有化（コスト削減）
危機管理課 事務所	
湖西市サーバー機械室（DX推進課）	<ul style="list-style-type: none"> ・立地上のセキュリティ強化 ・ランニングコストの削減

庁舎等の想定規模（案）	
区分	概要
庁舎等の規模	庁舎棟 建築面積：約1,250㎡（RC造 3階建） ※車庫部分に中2階あり 附属建物・設備等 【調整中】
主な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部機能と119番の受信機能を有する災害に強い施設 ・市役所機能の一部（危機管理課ほか）を統合した合理的な施設 ・災害対応や24時間勤務という特殊な業務に対応できる施設（市職員の対応含む） ・災害出動する職員と一般市民等の動線を区分した施設 ・バリアフリーを基本とした一般市民等が活用し易い施設 ・省エネルギーの推進と再生可能エネルギー等を普及した施設 ・DXの推進を目指したICT化に対応した施設
配備予定の車両	災害対応車両 指揮車・化学車・タンク車・大型水槽車・はしご車・救助工作車・支援車（コンテナ含む）・資材運搬車・水上オートバイ・高規格救急車3台 その他の車両 指令車・査察車・広報車・消防団指令車・消防団資材運搬車・連絡車2台・オートバイ3台・危機管理課の公用車3台

庁舎主要諸室の構成（案）	
用途区分	諸室
消防本部（消防署）機能	出動車両の車庫、出動準備室、救急消毒室、救急資機材庫、資機材庫、収納庫、洗濯室、乾燥室、空気充填庫、電気室（非常用発電設備）、仮眠室、書庫、事務所（消防署・警防課・消防総務課・予防課）、消防長室、消防団室、食堂、消防会議室、相談室、通信指令室（同報無線室・専用仮眠室を含む）、厚生室、救急訓練室（トレーニング室）、給湯室、更衣室（男女）、女性消防団室、女性専用室（仮眠室、厚生室ほか）、警備本部室（消防本部会議室）、消防団本部室、消防サーバー室（通信指令室機械室）
市役所機能	危機管理課事務所、本部員会議室、応接室、休憩室、災害対策本部室、サーバー室（DX推進課）
共有	玄関ホール、廊下、階段室、トイレ、エレベーター、非常用発電設備、国旗掲揚塔
附属建物・設備等	車庫兼防災倉庫、訓練塔、訓練塔兼防災倉庫、ホース乾燥塔、防火水槽、消火栓、自家用給油取扱所、油庫、駐輪場、駐車場（来客用・職員用）

事業費及び財源
今後、敷地内の地質調査及び建設設計（基本設計）を行い、それに基づいて具体的な積算を行うこととさせていただきます。また、財源については、他用途との複合化による財源措置（補助金）の活用だけでなく、地方債を活用することにより、世代間の負担の公平化を図るよう努めます。

事業手法
湖西市の財政状況が厳しいことから、より効率的な整備手法を検討します。また、市役所機能の一部（危機管理課ほか）を統合することにより、大きな効果が期待できるため、市関係部局と綿密な調整を行い、事業を進めます。さらに、これから策定に入る「（仮称）湖西市消防防災センター建設整備計画」については、公開性、透明性の高い方式を採用しながら、事業の推進を図っていくこととします。